

日本 ALS 協会

秋田県

支部だより

第54号

平成26年度 県南・県北交流会

事務局からのお知らせ

協力して下さる方を募集しています。

秋田県支部では運営を手伝って下さるボランティアを募集しています。

□主 旨

支部の活動は、この厳しいALS（筋委縮性側索硬化症）で闘病されている方達と共に、日本ALS協会と連携をとりながら療養環境改善や社会への理解を進めることを基本にして、具体的には下記のような活動をしております。

□具体的活動

- 1) 総会を開催して、会員互いの理解と交流を行っています。
- 2) 研修会を開催いたします。
- 3) 患者さん達へ訪問します(慰問と話し合い・闘病の課題確認など)。
- 4) 患者さんの相談ごとを受けたり、関係行事や情報を流したりします。
- 5) 支部便りを年2回発行し情報の基幹としています。
- 6) 定期の事務局会議を月1回(土曜日か日曜日の半日)開催します。
- 7) その他ALS患者を支援すべき事項に対応。

*意欲的に行うべきことは多いのですが、事務局員の数が少なく、苦慮しています。

□現在の事務局員

ただ今、事務局員をやっている方は医療関係に勤めている方や、患者家族の方、無職の定年退職者、ALS患者などさまざまです。特定の技能や資格を持って行っているのではなく、それぞれが持つ能力を發揮して、それに合った活動に資しています。

□募集対象

年齢・性別・経験等は問いません。

自分の持つ能力を前向きに、他人のためにも生かそうと意欲をもっておられる方。

(知り合いの方で、ボランティアして下さる方などぜひご紹介お願いします。)

□連絡先

住 所：〒010-0003 秋田市東通7-4-26 長谷部方

電 話：090-5838-3606(事務局)

FAX：018-832-8779(事務局)

Email：als-akita@outlook.com (変更になりました)

秋田県支部長 梅川 捷子

巻頭言



日本ALS協会 秋田県支部長／梅川 捷子

ALSってなに？

ここ数か月で、銀座でのGORON、アイスバケツチャレンジなどを通じて、多くの方々にこの病気のことを知ってもらうことができました。きっかけは単純なことでも関心を持っていただけたことはとても良かったと思います。

けど人って熱しやすく冷めやすいですね。一時の流行ではなく、関心がずっと続けばいいなと思います。

再生医療も日々進歩しています。治療法が確立される日が待ち遠しいです。



【目次】

* 第28回 日本ALS協会秋田県支部総会

開会の挨拶	>>>	2
祝辞	>>>	3
活動経過報告	>>>	4
会計報告書	>>>	6
会計監査報告書	>>>	7
活動方針	>>>	8
会計予算書	>>>	9
秋田県支部役員名簿	>>>	10
秋田県支部規約	>>>	11
概要報告	>>>	12
アンケート結果	>>>	16
* 北海道・東北ブロック会議に参加して	>>>	18
* アイスバケツチャレンジのお礼とご報告	>>>	19
* 平成26年度交流会のお知らせ	>>>	21
* ご寄付ありがとうございました	>>>	22

* 入会申込書



第 2 8 回 秋 田 県 支 部 総 会

開 会 の 挨 拶

みなさん、こんにちは。

本日はお忙しい中、日本ALS協会秋田県支部総会にお集まりいただきありがとうございます。とうございます。

昨年度は県南と県北の2か所で交流会を開催し、患者さんやご家族、医療従事者のお話を伺い意見交換、情報の共有を図りました。普段抱えている悩みや現状を話すことで、今後につながるきっかけになったと思います。

今年度は2月にお知らせしたとおり、赤い羽根共同募金助成金を利用し、災害対策として在宅療養の方を支援するため非常時電源をお配りする予定です。少しでも安心して自宅で療養できるようお手伝いできたらと考えています。

総会終了後、フラダンス同好会の方々のフラダンスやあきた病院の日本ミュージック・ケア研究会の方々による音楽療法があります。ぜひお楽しみください。

最後になりましたが、皆さまの益々のご健勝を祈念し、挨拶に代えさせていただきます。

平成26年6月7日

日本ALS協会 秋田県支部長 梅川 捷子

日本ALS協会会長 長尾義明様より祝辞

日本ALS協会 秋田県支部
支部長 梅川 捷子 様

日本ALS協会 秋田県支部
平成26年度 年次総会を祝す

紫陽花が色づき梅雨の便りが届き始めました。皆様方のご健勝のことと思います。先般の韓国の船の事故や不謹慎なテロの事件等、人間何処にいても何が起こるかわからない時代になりました。技術が進歩するほど事件や事故も複雑化してきましたね。

今、難病新法に変わりつつありますが、法を患者の為の法律にするのは私たち患者の団結です。一人でも多くの会員を誘い、力強い協会にしましょう。一人では戸惑うことも十人寄れば解決しますし百人寄れば前進します。多種多様な状況への対応を可能にするために協会が結束し国や自治体にALSの実態を訴えるべきです。ALS患者には皆無だった治療方法もi p s細胞や最近話題のALS症状改善タンパク質の発見など先生方の研究により患者にとっては待望のニュースとなっております。人間生まれてきた以上、人に必要とされる人間になりたいものです。たとえ障害があっても自分の体験や、苦しかった経験を後世に伝える義務があります。

今後も患者を取り巻く環境は厳しさを増すと予想されますが、こういう時こそ私たちの協会としての訴えが、今後の行政の対応にものをいうことになります。法人化を受けより一層の団結のもと、皆さんと一緒に協会運営を盛り上げていけたらと思っております。

皆様のご健勝をお祈りし、末筆ながら私の挨拶に代えさせていただきます。

以上

平成26年6月7日

日本ALS協会会長



案件資料 <<第1号議案>>

平成25年度 活動経過報告書

年月日	事項	場所	内容
[H25年] 4月21日	事務局会議	秋田赤十字 看護大学	秋田県支部代議員:長谷部 ひとみさん選出 平成25年度総会(第27回)開催についての計画 秋田県難病連参加 赤い羽根共同募金助成申請について ホームページ立ち上げについて
	支部だより発送	長谷部 宅	444部発送
5月12日	事務局会議	秋田赤十字 看護大学	平成25年度総会(第27回)開催についての計画 ホームページ立ち上げ、運営をネットパーソンズへ依頼
	会計監査		平成25年度支部会計を監査
5月18日	日本ALS協会 総会参加	戸山サンライズ	長谷部 ひとみ副支部長参加
6月1日	総会・交流会	遊学舎	平成25年度総会・交流会(第27回)開催
7月7日	事務局会議	秋田赤十字 看護大学	総会の反省 今後の活動、連絡先の変更についての確認 秋田県支部長に梅川さん決定 県南・県北の交流会について (日程・役割分担・物品準備等) 第52号支部便り発行についての計画
8月31日 ～9月1日	JPA北海道・東北 ブロック会議	岩手	長谷部副支部長参加
9月7日 ～8日	JALSA北海道・ 東北ブロック会議	山形	長谷部副支部長、佐藤事務局長出席
9月21日	事務局会議	遊学舎	赤い羽根共同募金助成金決定 支部便り発行予定について 和田先生へのアンケート協力について

年月日	事項	場所	内容
10月19日	県南講習会 事務局会議	サンサン横手	県南交流会 支部便り発送についての最終確認 赤い羽根共同募金助成金について
10月26日	支部便り発送		第52号支部便り包装配送(437部)
11月2日	県北交流会 事務局会議	山本組合病院	県北交流会の開催(名参加) 赤い羽根共同募金助成金のバッテリー選定方法について
12月14日	事務局会議	秋田赤十字 看護大学	交流会の反省 支部便り発行経費対しNHK歳末助け合い共同募金の助成が決定 発電機:エネポと栄商金属株式会社のバッテリーのデモ
[H26年]			
1月25日	事務局会議	大潟村 ふれあい健康館	難病連より理事の依頼があり長谷部副支部長へ依頼 赤い羽根共同募金助成金は 在宅人工呼吸器バッテリーに決定 今後の支部活動について NEC難病コミュニケーション支援セミナー協賛について 第53号支部便りの計画 H26年度支部総会についての日程等の計画
2月15日	事務局会議	遊学舎	赤い羽根共同募金助成金バッテリー支給について 第53号支部便りの原稿について
3月15日	事務局会議	遊学舎	秋田県支部総会についての内容等の計画 赤い羽根共同募金助成金支部負担金について H26年度支部総会についての日程等の計画 第53号支部便りの原稿について



平成25年度 会計報告書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(単位:円)

収入	1,745,694	
支出	1,324,998	
差し引き	420,696	(次年度へ繰越し)

《収入の部》

項目	前年度予算	予算額	増減	内容
日本ALS協会より	190,000	190,000	0	活動助成金
皆様よりの寄付	500,000	526,000	26,000	65名、4団体
赤い羽根募金から	0	300,000	300,000	難病連経由
雑収入	100	83	-17	貯金利子
前年度繰越金	729,611	729,611	0	
計	1,419,711	1,745,694	325,983	

《支出の部》

項目	前年度予算	予算額	増減	内容
支部だより	400,000	321,090	-78,910	印刷製本費(52・53号)
活動費	500,000	498,440	-1,560	総会、交流会、会議費、HP
通信費	200,000	191,125	-8,875	送料、切手、ハガキ、電話
事務費	200,000	221,183	21,183	宛名シール、事務用品
負担費	39,200	39,620	420	難病連
図書購入費	50,000	0	-50,000	
予備費	30,511	53,540	23,029	本部会費
計	1,419,711	1,324,998	-94,713	

会計監査報告書

私たちは、日本ALS協会秋田県支部の平成25年度会計について
下記により監査したので報告します。

期 日：平成26年5月10日（土）

場 所：遊学舎 研修室

対 象：貯金通帳、郵便振替受払通知書綴、
受払領収書、金銭出納整理簿、
関係文書綴り、関係資料

結 果：今回の会計監査にあたり、会計監査対象範囲に
不正不明な箇所はなく適正と認めました。

平成26年5月10日

会計監査者

山口貴美子 

会計監査者

柳屋道子 

平成26年度 活動方針

1. 支部便りの発行や研修会の開催などを行います。

ALS患者の療養改善に役立つことを基本に、いろいろな情報や関係法令施策など参考になることや、生きがい発見につながる患者さんからのお便り、医療福祉の専門家やボランティアなどからの報告など、参考になることを紹介します。

また、療養に関する研修などを行います。

※皆様の情報や質問、提案、写真など、どしどし送って下さい。

2. 患者訪問や地域交流会に努めます。

患者さんの療養実状を把握することにより、活動の的確化と、一人だけで落ち込まないための連携強化に努めます。

また、患者会員のネットワーク（県難病医療ネットワークへの対応と協力）の充実のため、地域世話人との連携強力に努めます。

3. 介護保険・支援費問題の相談を申し受けます。

お困りごとは気軽に秋田県支部までご相談下さい。問題解決については関係機関に働きかけをします。

4. 障害福祉機器の支援を行います。

意思伝達装置やコール、文字板などの操作の仕方、トラブルなど相談体制を整えました。
※お困りの方はご相談下さい。

5. ホームページの運営。

ホームページを運営し、皆様への情報伝達やご意見等への対応に応じます。

6. 在宅人工呼吸器患者の停電時の対応

安心して在宅療養ができるように、バッテリーの設置促進を行います。

7. 日本ALS協会(本部)への会員募集を勧めます。

障害者自立支援法への対応など、病気を患っている方への力を増すためには、協会本部との連携を深め、活動力強化が必要です。そのためには本部会員を増やすことが大切であり、加入をお勧めします。

※日本ALS協会の入会ご案内は、支部事務局または、支部便りにあります。

会員会費は、年間4,000円/人。この会費を元に、各県支部に活動助成され、当支部の活動根元となっています。

会費納入先 『加入者名：日本ALS協会』 郵便振替口座 No.00170-2-9438

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-15-15 瑞鳥ビル1F

TEL：03-3234-9155 FAX：03-3234-9156

平成26年度 会計予算書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(単位:円)

収入	1,407,796	
支出	1,407,796	
差し引き	0	(次年度へ繰越し)

《収入の部》

項 目	前年度予算	予算額	増減	内 容
日本ALS協会より	190,000	187,000	-3,000	活動助成金
皆様よりの寄付	500,000	500,000	0	
赤い羽根共同募金	0	300,000		
雑収入	100	100	0	貯金利子
前年度繰越金	729,611	420,696	-308,915	
計	1,419,711	1,407,796	-11,915	

《支出の部》

項 目	前年度予算	予算額	増減	内 容
支部だより	400,000	300,000	-100,000	印刷製本費(54号・55号)
活 動 費	500,000	500,000	0	総会、交流会、会議費
通 信 費	200,000	200,000	0	送料、切手、ハガキ、電話
事 務 費	200,000	200,000	0	事務用品
負 担 費	39,200	36,880	-2,320	秋田県難病連
図書購入費	50,000	10,000	-40,000	図書(新ALSケアブック)
予 備 費	291,564	160,916	-130,648	弔電、香典
計	1,680,764	1,407,796	-272,968	

平成26年度 秋田県支部役員名簿

役職名	氏名	備考
支部長	梅川 捷子	患者
副支部長	長谷部 ひとみ	患者家族
事務局長	佐藤 夕子	支援者
事務局員	鈴木 光子	支援者
	岸本 あや子	支援者：会計担当
	木下 彩子	支援者
	田村 沙央里	支援者
	福井 喜美	相談係
会計監査	星 佳子	支援者
	山口 貴美子	支援者
顧問	松本 茂	患者：日本ALS協会名誉会長
相談役	廣田 紘一	医師
	豊島 至	医師
	石黒 英明	医師
	芋田 強	医師
	小林 道雄	医師
	加賀谷 肇	医師
	和田 千鶴	医師
	菅原 正伯	医師
	市原 利晃	医師
地域世話人	松本 るい	大潟村
	袴田 光樹	能代市（ケアマネ）
	桜田 美穂	能代市
	稲部 和子	大館市（看護師）
	鎌田 ひろ子	由利本荘市（看護師）
	草薙 兼	仙北市（遺族）
	赤平 綾子	横手市（看護師）

日本ALS協会 秋田県支部規約

設定：昭和61年5月10日（改：H11.9.4）（補正：H23.6.18）（補正：H26.6.7）

1. 本会は日本ALS協会秋田県支部（略称：JALSA 秋田）とする。
2. 本会は、地域社会への啓発とALS（筋萎縮性側索硬化症）をとりまく療養環境の改善を図ることを目的とし、日本ALS協会本部と緊密な連携をとりながら、次の活動を行う。
 - ①会員相互の交流、研究活動
 - ②患者の療養環境改善のため、常に関係者と連携し充実をめざす。
 - ③未入会患者家族への常に関係者と連携し、充実をめざす。
 - ④ALSについて啓蒙や情報活動に努める。
 - ⑤その他
3. 会員は、原則として秋田県内在住の日本ALS協会正会員、賛助会員、特別会員をもって構成する。
4. 役員は次のとおりとし、任期は原則として1年、再任を妨げない。
支部長、副支部長2名、事務局長、運営委員（事務局）若干名、会計監査2名、そのほかに相談役、地域世話人を設ける。
5. 支部長は総会や役員会を開き、支部の運営に当たる（必要に応じ、地域交流会を開く）。
6. 支部総会は原則として年1回とし、次のことを決める。議決は出席者の過半数をもって成立する。
 - ①役員選出
 - ②活動報告、決算報告
 - ③活動方針、予算の決定
 - ④規約の改廃、その他
7. 事務所は支部長宅に置くことを基本とする。
8. 支部活動に必要な経費は寄付金、助成金、その他の収入でまかなう。
9. 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

平成26年度（第28回）日本ALS協会秋田県支部総会

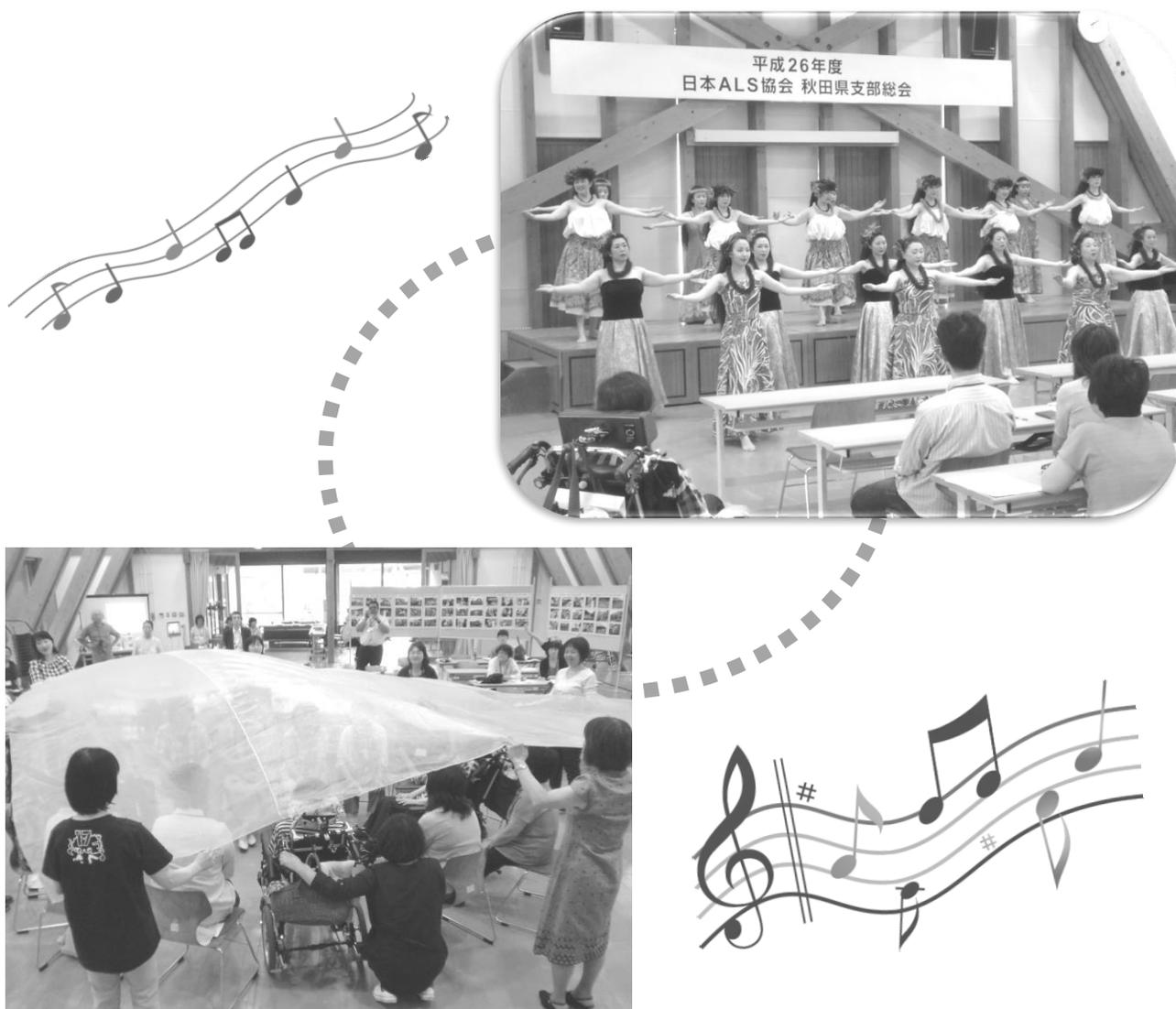
長谷部 ひとみ

6月7日（土）秋田市上北手の遊学舎会議棟において、今年も総会が開催された。

今回は初めての試みとして、講演会ではなく音楽療法ということで、事務局員一同期待と不安の中スタートしたが、フラダンスの方たちとあきたミュージック・ケア研究会の熱演で予定時間を超過するほどの楽しいものだった。

いつもはタイムリーな話題を探して、それに見合った講師をお願いしていたが、たまには今年のようにお楽しみ会のような行事もいいのかな、と思った。

少しミュージック・ケアについて触れておこう。



ミュージック・ケアの実際

～心をつなぎ、紡いでいくための音楽療法～

1. ミュージック・ケア（加賀谷集団音楽療法）とは

「音楽の特性の一部を利用して、その人がその人らしく生きるための援助をすることであり、子供の場合はその子供の持っている力を最大限に発揮させ、発達の援助を行うことである。」

福祉や医療、教育の現場でにわかに音楽療法が注目されるようになり、全日本音楽療法連盟もその方法や実践の研究を行うようになってきています。そんな中“現場ですぐ生かせる音楽療法”を、という信念のもと、私たちは長年ミュージック・ケアを実践してきました。ミュージック・ケアは、故・加賀谷哲郎先生（1967年日本音楽療法協会を設立、1983年没）が、実践の中から創案された方法に基づき、多くの実践現場の中で深め、確かめられた、現場ですぐに生かせる方法です。

「音楽の特性を生かし、心と心を響かせ合う」この方法は、音楽がちょっぴり好きで子供たちやお年寄りの笑顔を求めている人なら「だれでも どこでも いつでも」できます。

【 故・加賀谷哲郎先生について 】

明治44年1月秋田県生まれ、声楽家を目指して武蔵野音楽大学に入学する。

その後、中野音楽学校に入学し教員免許を取得、音楽教師としての道を歩み始める。

水上生活者、山谷の子供たちの学校作りに力を注ぎ、校長を務める。

子供たちの荒んだ心のケアにこそ音楽が必要だと考え、音楽療法に取り組み始める。

学校退職後、今まで育ててきた集団音楽療法を東京、横浜などの知的障害者の施設で実践する。

その間に日本音楽療法協会を設立。東京学芸大学講師、日本社会事業大学講師、国立秩父学園講師を務める。また、日本愛護協会のスクーリング講師も務め、広くその育成に関わってきた。

存命中、「加賀谷集団音楽療法夏期セミナー」を13回開催する。アルヴァン夫人とは親交が深い。

2. ミュージック・ケアのねらい

「音楽の特性を生かして、対象者の心身に快い刺激を与え、対人的な関係の質を向上させ、情緒の回復や安定を図る。さらに、運動感覚や知的機能の改善を促し、対象者の心身と生活に好ましい変化を与える。」

だれでも、どこでも、いつでも楽しめる

ミュージック・ケア技術

- ・ミュージック・ケアのオリジナル曲
- ・受容的音楽 (鑑賞用)
- ・積極的音楽 (器楽)

身体表情表現

- ・ボディランゲージ
- ・曲体験
- ・運動感覚機能の発達

時間的空間の共有
・関係性の構築

同質の原理
・音楽を聴く

心の解放、静と動の体験、達成感、成功感

その人がその人らしく生きる

自らが生きたいと思う力

- ・情緒の回復
- ・知的機能の改善
- ・対象者の心身と生活に好ましい変化を与える

ケアされあう関係

安心できる関係-信頼関係

ケアする側

ケアされる側

- ・自由、自己決定
- ・個人の尊重

ケアの心

人は一人では生きていない



平成26年度 日本ALS協会秋田県支部総会 アンケート結果

アンケート回収率：23.3%（14/60名中）

1. 性別

①男性：2名 ②女性12名

2. 年代

①20代：0名 ②30代：1名 ③40代：3名 ④50代：4名
⑤60代：4名 ⑥70代：0名 ⑦その他：0名

3. 所属

患者：2名 患者家族：6名 看護師：4名 介護福祉士：1名
ヘルパー：1名

◆本日の企画・運営に関して

* 今までとは全く違った企画、本当に楽しかったです。

* 楽しい企画をありがとうございました。本日は初めて参加させていただきました。皆様のお話を聞きたくて参加いたしました。

* 音楽療法の効果というものを実感しました。新しい企画、よかったです。

* フラダンサー、音楽療法の保育士さんたちの参加、ご協力、大変嬉しく思いました。指の動きが美しく、自分もフラダンスをやってみたいと思いました。高速を使ってきたので肩こりしていたのですが、運動で体がほぐれ、眠ってしまいました。（音楽療法）

* とてもよい交流会だと思いました。

* 大変楽しい一日でした。

* 本日も初めて会に参加しました。とてもありがたかったです。

* 今日初めてきました。病気のことを忘れて楽しく過ごさせていただきました。ありがとうございました。

* 6回目の参加になりました。いつも勉強になることが多くてそれもよかったのですが、今回の企画もとても楽しかったです。カんでいる肩の力が少し抜けた気がしました。

※なお、個人を特定される可能性のある文章は省かせていただきました。

◆日本ALS協会秋田県支部に関して

* 日頃の協会の活動に感謝しています。今後ともよろしくお願い致します。

* これから病状が悪くなっていくのかなあなどと不安になることが増えていくと思います。いろいろと相談に乗っていただけたらありがたいと思います。

* 協会の看護師さんが自宅に来訪してくださり、自立支援の存在を知ったことはとても大きなことでした。協会に入らなかつたらまだまだ知らないことが多かったと思います。もっと多くの患者や家族が参加できるようなくふうがあるといいなと思うのですが…県南支部で知り合った方達はどのようにしているのかなと思います。

* 様々なご苦勞、感謝致します。

* リクライニングの車椅子の種類やメーカー販売・購入等について情報を得たい。患者との意思の意志疎通の手段等の情報を得たい。
(→ALS秋田県支部へご連絡いただければ、情報提供させていただきます。)

* いつも難儀かけています。ありがとうございます。

日本 A L S 協会 北海道・東北ブロック会議に参加して

佐藤 タ子

9月20日に仙台市で開催された北海道・東北ブロック会議に副支部長の長谷部ひとみさんと参加した。北海道からは支部長さんが若い男性介護者を2人伴って参加した。今回は患者さん7人・家族役員含め総勢40数人の参加者であった。参加患者さんが、体調不良で訪問診療のDr.川島が訪問の合間をぬって駆けつけてくれたのは、宮城県支部の日常の活動の成果だった。

各支部の活動状況と情報交換が目的である。昨年、支部立ち上げに積極的だった青森県支部が不参加だったのは、残念だった。本部理事の参加で「アイスバケツチャレンジ」の報告があり、賛否両論のなか寄せられた「寄付の使い道」が現在のテーマであることが報告された。どちらにしても「ALS」だけでなく「難病」に多くの人に理解と関心が寄せられることが期待されていた。各県支部に共通しているのは、支部体制の整備と会員の拡大が求められていること。その上でうらやましいのは役員が若返りがなされている支部があったことである。新しい人も懐かしい人もいて少しでも今年の会議から、自分の支部に持ち帰ろうとしている姿勢があったことは、学ぶべきことであった。

また各県支部とも課題としてレスパイト入院・長期入院の施設を確保すること・コミュニケーション機器支援・財源の確保があげられた。

朝10時からの日程は来年の開催県が福島に決まり17時で終了した。



A L S 支援「アイスバケツチャレンジ」の お礼とご報告

一般社団法人日本 A L S 協会
会長 長尾 義明

私たちは、このたびの“アイスバケツチャレンジ”が爆発的に広まり、多くの方が A L S に関心をお寄せくださいましたことに対して、驚きと共に心から感謝いたしております。

日本 A L S 協会は 1 9 8 6 年設立以来、会費とご寄付により治療研究の推進と A L S 患者の療養を支援する活動を続けてきました。

日本における A L S（筋萎縮性側索硬化症）患者は現在およそ 9 1 0 0 名。原因不明で進行性の神経疾患として、国の難病指定を受けています。運動神経が選択的に侵されるため、発病からわずか数年のうちに全身がほとんど動かせなくなり、移動や食事、排せつなどが全介助となります。また会話でのコミュニケーションや呼吸することさえもできなくなります。いまだ進行を食い止める薬はなく、生きていくためには必ず人工呼吸器や経管栄養が必要になりますが、本人がこれらの治療を開始するか、それとも断って死ぬかを選択しなければならないという過酷な病気です。世界中で治療薬の開発が待たれています。

現在、日本 A L S 協会の会員数は約 5 0 0 0 名（うち患者家族 2 0 0 0 名）、「筋萎縮性側索硬化症と共に闘い、歩む」ことを合言葉に、会員同士の戸別訪問や多くのボランティアに支えられた地道な支援活動をしてまいりました。ほぼ全都道府県に支部があり、日本各地で暮らす A L S 患者の Q O L 向上と共に一般の方にはこのような希少な疾患に対してご理解をいただけるよう、日夜努めてまいりました。

日本ALS協会には、この数週間、圧倒的多数の共感と支援の温かい声が寄せられる一方で、売名のためにやっているのではないか、子供の「イジメ」に使われているのでやめさせてほしい、チェーンメールと同じ構造である、などという声も届いており、困惑しております。いうまでもなく、ご支援やご寄付は強制であってはならず、またその行為によって危険に遭遇したり、不利益を被ったりする人がいないことを願っております。

また、他の難病に関しましても理解が広がる契機になることを願っております。

いただいたご寄付は9月18日までに3609万円になりますが、治療研究と患者支援のために有効に活用いたします。当協会ALS基金で毎年行っている、研究奨励金の増額や対象の拡大などを行う予定ですが、急なことで状況が落ち着いてから具体的に検討し、機関誌やホームページなどで報告していきたいと考えています。

以上



赤い羽根共同募金助成事業のご報告

平成25年度赤い羽根共同募金の助成を受けて、在宅人工呼吸器患者に災害時停電対応のバッテリー設置事業が行われました。秋田県支部で把握している、県内の13人の在宅療養の患者さんにそれぞれの使用呼吸器に応じた、予備のバッテリーを支給しました。

災害のないことが一番ですが、非常の場合には備えが大切です。少しでも皆さんの安心材料になれば幸いです。

(事務局 長谷部)

平成26年度 交流会のお知らせ

主催：日本ALS協会秋田県支部

< 県南 >

日時／ 平成26年11月8日（土）

13：00～15：00（12：30より受付）

場所／ サンサン横手

※県北交流会は10月18日に大湯リハビリ温泉病院の
患者さんを訪問しました。

～申し込み & お問い合わせは事務局へ～

【FAX】018-832-8779

【e-mail】als-akita@outlook.com



ご寄付ありがとうございました

平成26年4月1日～平成26年9月30日 敬称は省略させていただきます

- ・金子レイ子 (秋田市) ・飯村禮子 (練馬区) ・大道笑美子 (富山市)
- ・猿田健一 (秋田市) ・菅原フユ子 (大潟村) ・橋本 操 (練馬区)
- ・平間和子 (大潟村) ・竹林章子 (荒川区) ・大塚直子 (大潟村)
- ・高橋節子 (秋田市) ・西尾文子 (恵那市) ・長門鉄二 (泉佐野市)
- ・千葉憲悦 (大潟村) ・菅原トシエ (秋田市) ・新内美智子 (金山町)
- ・右谷美知子 (美郷町) ・飯塚妙子 (秋田市) ・明平ひとみ (大仙市)
- ・山本嘉子 (大潟村) ・小林 収 (大潟村) ・戸嶋洋子 (大仙市)
- ・鈴木 幹 (大仙市) ・川崎節男 (大潟村) ・寺田ヒデ (大潟村)
- ・土井宏子 (大潟村) ・廣田紘一 (秋田市) ・松本文彦 (高知市)
- ・長門百合子 (秋田市) ・芳賀友子 (秋田市)
- ・きららアーバンパレス/鈴木嘉彦 (秋田市) ・能代山本訪問看護ステーション (能代市)
- ・大湯リハビリ温泉病院 (鹿角市) ・大竹整形外科 (青森市)

皆様のこの心のこもるご寄付は、支部活動の源となっております。
ご厚志に深く感謝申し上げます。

郵便振替

口座番号：02510-3-7658

加入者名：日本ALS協会秋田県支部

ご寄付のお振込みは、上記へお願いいたします。

*日本ALS協会への入会希望の方は、次頁『入会申込書』をFAXしますと
会費納入の振込票が送られてきます。

編集後記

ここ毎年夏は自然災害のニュースが多いですね。今年は秋の訪れが早いようで、ふと見るとあちらこちらで木々の色づきが見られます。

さて、難病対策も新しい法律の下で医療費助成制度などが始まろうとしています。また、JALSA 役員も半数が交代し新体制となりました。秋田県支部も今年度の総会は趣向を変えて行いました。今年は何かと ALS が話題になったことを機会に秋田県支部にもいろいろな方がご協力をして下さるとうれしいです。(あ)

NHK 歳末たすけあい



赤い羽根共同募金

この支部だよりは歳末助け合い共同募金の助成金で発行しています

日本 ALS 協会秋田県支部だより 第 54 号
